金剛寶戒寺便

令和四年二月一日発行　第九十五号
https://www.houkaiji.jp

檀信徒の皆さまこんにちは。一年で一番寒い時期にお便りを書いています。とは言ってもいつまでも続きません。寒いからこそ、お鍋も美味しく、お風呂も気持ち良い。この時期を楽しんで過ごして頂いたらと思います。

動植物は人間よりも体内時計が優れているのではないかと思うことが多々ありますが、時間や節目を使いこなせるのは人間だけの特徴です。それだけに私は節目を大切に思っています。一時間、午前、午後、一日、一週間など様々な節目があり、節目があるので気持ちの切り替えも出来て私も助かっています。

特に四十九日や一周忌、三回忌などの忌日の節目は悲しみの中にあるお檀家様にも「元気を出していきましょう。少しは前を向いてみませんか？」などと声を掛ける機縁にもなります。また、それほど気にかけない方でも大晦日と元旦の一日には節目を感じるのではないでしょうか？「年が変わったから今年は良い一年にしたい」「目標を新たに頑張りたい」などと節目を大切されると思います。これと同様に真言宗の寺院では節分に重きを置いて星祭りのお札を檀信徒の皆さまにお出ししています。

お札は全て数え年で勘定いたします。この数え年とは、お母さんの胎内に赤ちゃんが宿った時を零歳として、生まれた時が一歳になります。そして大晦日を超えて元旦を迎えると個人の誕生日とは関係なく、全員が一緒に年を取るのが数え年の数え方になります。

令和四年の本厄年

●男性
平成　十　年生まれ　二十五才
昭和五十六年生まれ　四十二才
昭和三十七年生まれ　六十一才

●女性
平成十六　年生まれ　十九才
平成　二　年生まれ　三十三才
昭和六十一年生まれ　三十七才

（本厄の前後の年が前厄、後厄になります）

星祭りは別名で星供（ほしく）とも呼ばれる密教修法の一つです。生まれた時の自分の星と、一年ごとに巡る星を供養する法要です。厄年のいわれには様々ありますが、男女で違いがあるのはやはり出産などが大きくかかわるのだと思います。またその昔は大厄の漢字に「大役」が使われている古書などもあることから、仕事や村の世話役、神社の世話人などを任される、人の目に多く付く年ごろとなり、身をつつしむ意味合いもあると言われています。

また、前厄、後厄が有るのは人間の成長など同じく、早く吉凶が巡る人、遅く訪れる人が有るために、その前後も厄年としてご供養をするのですが、当山ではお申込みいただいた方には個人（家）ごとに台帳を作り、毎年星祭りのお札をお渡ししているので、特別に希望をされない限りは（大きなお札を出さずに）通年通りの紙札をお出ししています。

星祭りの法要を修するのは節分ですが、当山では小寒の頃より朝のお勤めにて御祈祷を始めます。そのご祈願は何よりも心身健全の延命成就と無病息災、無事故の一年になるようにとお祈りを致します。そして一枚のお札からご本尊の大日如来様やお釈迦様、お不動様とご縁が頂けるのが何よりも有難いことではないかと思っています。

三月八日（火曜日）十四時より
「法話の会」金剛宝戒寺　本堂において

阪神・淡路大震災の記念式典から五日後の一月二十二日の未明にあった地震には驚かされました。二十七年前、この寒空のなか、外で余震に震えていた方々はどんなにか心細かったことかと思い直しました。幸いどのお家も大きな被害はなかったようですが、佐伯の大日寺さまの修行大師は台座から落ちて大きく破損をしてしまいました。そんなかたわら、信者様の間からは「お大師様が身代わりとなって害を受けてくれたんや」という声も聞こえてきたそうです。身を挺して守って下さったお大師様にも、またその様な心境になる信者様にも有難い思いが致しました。　合掌